

琉球大学学術リポジトリ

これからのさとうきび総合利用

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮城, 貞夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017433

これからのさとうきび総合利用

(財) 沖縄さとうきび振興組合
専務理事 宮城 貞夫

1. 沖縄に於けるさとうきび総合利用開発研究の経緯

- ① 本格・組織的研究開始：1987年
- ② 研究開発の動機：円高、ドル安に伴う内外価格差縮小問題

2. 益々厳しくなる今後の糖業と行づまる現行製糖法

- ① 迫られる内外価格差の縮小と原料減によるコストアップ
- ② 現行製糖法のみではキビ生産意欲の喚起は限界
- ③ キビ高価格維持には高付加価値総合利用が是非必要

3. 製糖副産物高付加価値利用の可能性と

シュガーインダストリー復活の時代

- ① Dr.Paturauが例示した140種以上の副産物高付加価値利用例
(別表)
- ② 石油化学工業および木材化学工業全盛有利で実施例少数
- ③ シュガーインダストリー復活の時代

4. 沖縄糖業の不利な条件と副産物利用失敗の原因

- ① 種類の沖縄糖業の不利な条件
- ② 過去、副産物利用事業失敗の原因

5. これまでの総合利用研究と問題点

- ① ケーンセバレーションシステム導入の研究
安価なバガス代替燃料見つからず未実現
- ② 廃糖蜜の有効利用研究
原料減や海洋汚染禁止法などで糖蜜処理装置運転が困難化

6. 現在県内で実施されつつある総合利用の新実用例

- ① 全茎無脱葉収穫と工場集中脱葉方式により全トラッシュを
収集利用可能化（伊是名島）
- ② 工場での梢頭部回収による種苗，飼料として有効利用

7. さとうきび総合有効利用のキーポイント

- ① 繊維有効利用法の確立
- ② 廃糖蜜の多面的利用法の確立
- ③ ケーンワックス利用法の確立

8. 望ましい公益法人による総合利用事業の開発推進化

- ① 新規事業開発には長期，多額の開発費必要
- ② 公益法人の方が資本の調達，集中化，補助金などで有利
- ③ 公益法人が開発推進すれば，その事業収益をキビ生産振興費に還元可能

9. 試案：全県さとうきび総合利用体系像

- ① 沖縄本島
- ② 宮古島，石垣島，久米島，南大東島
- ③ その他離島